

秋告げ虫

春告げ鳥，美しい鳴き声で，春が来たこと告げるウグイスのことです。虫の仲間にも季節の到来を告げる幾つかの種類があります。今回の衛生動物だよりに登場する季節を告げる虫は，フクラスズメの幼虫です。毎年，9月頃，決まったように検査依頼があります。平成22年9月4日と9月26日に検査依頼がありました。

フクラスズメ

ズメという名前が付きますが，ズメガの仲間ではありません。ヤガの仲間です。成虫の前翅の色合いが茶色と黒色で，雀の色彩と似ていることからズメという名前がつけられました。後翅には，美しい瑠璃色の斑があります。写真の成虫は，平成22年6月30日に検査依頼があった標本です。民家の倉庫の中で採集されました。

また，地味な成虫の色彩に比較して，幼虫の色彩は，何ともけばけばしいものです。頭部，尾部，脚は，朱色です。胸部，腹部は，黒地で背面には白色の，また，側面には黄色の筋状の模様があります。そして，腹部胸部の各節には赤色の斑状の模様があります。

食草

蛾の幼虫の多くは，植物を餌としています。そして種類によっては，食べる植物を決めています。これを食草といいます。例えば，皮膚炎を起こすことのあるチャドクガは，茶，椿，山茶花を食草にしています。フクラスズメの幼虫は，イラクサ科植物を食草としています。イラクサは，河川敷，空き地などで大量に自生していることがあります。葉の周辺部は，ぎざぎざの切れ込みがあり，紫蘇の葉に似ていますが，葉の表面や茎に棘があること，肉厚であること，裏面が白っぽいことなどから簡単に区別ができます。今回のケースでは，畑地の周辺の空地に自生していました。

フクラスズメの害

見た目のけばけばしさは，ドクガを連想させますが，人への健康被害はありません。

フクラスズメが問題になるのは大量の幼虫の徘徊です。もともとイラクサは雑草です。イラクサを食べているだけならそれほど問題になりません。ところが，大発生するとイラクサを食べつくしてしまい，次のイラクサを求めて徘徊します。大量のフクラスズメの幼虫がもぞもぞと歩き出し，道路や住宅地に進入してきます。こうした時に市民から相談があります。

対策

人への健康被害がないので特段の対策は，必要ありません。住宅に侵入してきたら，摘み上げて，ビニールの袋にでも入れておけばよいことです。ただし，大量に発生し，数千匹もの幼虫が住宅地の周りにうごめいていれば，殺虫剤を散布するのも対策の一つです。

幼虫の行動

フクラスズメ幼虫は，独特の行動をとります。イラクサをゆすったり，幼虫を直接刺激したりすると，腹脚で体を支えながら，大きく反り返り，上半身を左右に激しく振りだします。すると同じイラクサにいる他の幼虫もその振動を感じ，体を左右に激しく振りだします。数匹が同じような行動をとるとイラクサ自身が風もないのに左右にざわざわと動きます。他の蛾幼虫には見られない行動です。



フクラスズメ成虫



食害されたイラクサ



幼虫(側面からの画像)



幼虫(上面からの画像)



体を激しくゆする幼虫